

令和4年度 第2回学校運営協議会議事録

令和4年11月7日(月)

部会	内容・意見
校長挨拶	<p>コロナ禍の中、ご参加いただきありがとうございます。</p> <p>防災プロジェクトは、グループを超えて横断的に、また、PTA役員・茅ヶ崎市・寒川町・地域の方と一緒に進めています。限られた時間ですが、是非、忌憚のないご意見をよろしくお願いします。</p>
学校評価 中間報告	<p>学校評価アンケートは、114人の教職員が回答しました。</p> <ul style="list-style-type: none">・「主体的・対話的で深い学び」の研究は、指導案に反映させるなど、取り組みが進んでいます。・ICT機器の活用は、視線入力、iPadの利用で実績を作っていますが、教職員の意識として29%が十分でないと感じているという結果が出ました。得意な人とそうでない人の差があり、研修等でその水準を上げていきます。・医療的ケアに関する通学支援については、取り組みは進んでいます。・専門性の向上は、児童生徒を理解し人権に配慮した指導を行うために必要なことです。10月までに27回の専門性に関する研修会を設定しました。今後も専門性個以上に向けた取り組みを進めていきます。
医療的ケアのある児童生徒への通学支援について	<p><パワーポイントを使用したプレゼン></p> <p>医療的ケアのある児童生徒に対する通学支援は、スクールバスの利用と福祉車両の利用の2パターンありますが、本校は福祉車両の利用で、県内で最も進んでいます。車両の事業所と看護ステーション事業所の両方とのやり取りが必要で、そこが大変です。本校は保護者の積極的な行動によって、どんどん進めることができました。</p>
協議 防災プロジェクトの取り組み紹介	<p>テーマ：「学校と地域を防災活動でつなぐ」</p> <p><防災プロジェクトの取り組みをパワーポイントで紹介></p> <ul style="list-style-type: none">・防災関連業務メガプランは、着々と各方面の仕事を進めています。防災に役立つアウトドアのイベントでは、多くの防災関連・車輛関連企業に参加いただきました。・車上泊体験では、医療的ケアのある児童生徒も参加しました。食事作り

意見交換

では、この子にとって何が各保護者がそれぞれに考えて持ち寄りました。夜は暗闇体験をしましたが、これもほんとにやってよかったことです。保護者が中心になり、障害の重い児童生徒も集まるので、いろいろな方面から「ほんとにやるの?」と言われてましたが、本当にやりました。

- ・地域との共生という視点で地域イベントに参加しています。養護学校の子どもたちを知ってもらうこと、茅ヶ崎養護学校のある場所を知ってもらうこと、スクールバスが通っていること、発災時にバスの中の子どもたちを助けてほしいことなどについてPR活動をしています。登下校時に災害が起きたら、少しでも関係性ができていることで助けてもらえるかもしれない、助けてもらうために顔の見える関係性を築こうとしています。

○茅ヶ崎市防災対策課:避難所の整備と備品の準備、できることは何かを常に考えています。小中学校などに避難した場合でも、安心して過ごせる環境作りをしていきたいと思っています。また、要望などがあれば、伝えてほしいと思います。

○茅ヶ崎市防災対策課:防災プロジェクトのプレゼンに心を掴まれました。私も同じ思いです。市防災対策課として、公費で準備予定のものは、ワンタッチパーテーション、多目的ベッド、簡易折り畳みベッド、折り畳みマット、スポットクーラー、自動ラッピングトイレ、デジタル簡易無線機、M95マスク、防災倉庫、蓄電池などです。本年度中に整備を進めていく予定です。

○富士ソフト企画:障害のある人たちが集まっている会社です。地震が発生した時に、障害者の社員と避難した際、薬が切れる心配でパニックなどがありました。暗闇の中を地域の小学校へ避難しました。その後地域の方も少しずつ集まってきましたが、体育館の中にあるものを配るなど、その場で人のために動くことで、意識も変わっていきました。元気が出てきました。

学校などの避難所では、何がどこにあるのかがわからないので、日頃からわかるようにしておく必要があります。

○浜之郷小学校校長:顔の見える関係、日頃から何かの時に協力し合える関係を築いていたいと思います。

○自治会長:茅ヶ崎養護学校の防災訓練の実施状況はどうですか。

→地震避難訓練と火災避難訓練をしています。

洪水については、3メートルの水が上がってくると言われていますが、3メートルの実際は、1階部分の天井が水につかると思っています。津波はこの地域は入っていないのですが、川から遡上してきた水が問題です。訓

練としては、2階に上がるという事、そこで待機することです。いわゆる垂直非難について確認をしています。車いすの児童生徒は、車いすに支援カードを付けるようにして、どう運ぶのかが分かるようにしています。

防災対策課へ質問です。防災配備は地域にはどうなっていますか。

→地域自治会への配備は考えないで、避難所となる小中学校に防災用品の配備を行っています。

○社会福祉法人碧: 当法人でも避難訓練をしていますが、まだ足りないと思っています。茅ヶ崎養護や、浜之郷小学校、地域の方々にお世話になります。それぞれが繋がっていないといけないと思います。よろしくお願いします。

○PTA 会長: PTAは、元気村マルシェなどの地域イベントに飛び出して行って、知ってもらおうということをやっています。顔の見える関係性を作っています。3.11の時、障害者が消えたと言われていました。みんな避難所には行かなかったそうです。私たち子どもたちは、避難していなくては。地域と防災訓練で何ができるのか、考えていきます。

○地域の代表: 本業は、シナリオライターです。地域のイベントに係り、何か協力できないかと、肩に力を入れないで、自然に地域イベントに参加できるきっかけ作りに取り組み、茅ヶ崎養護とかかわって1年くらいになります。昨日も老人ホームのイベントに協力して、養護学校と老人施設は対象となる人は違うけど共通する部分があると思いました。小さな共生をどんどん繋いでいきたいです。

○議長: 学校運営協議会は校長の方針を実現する場であり、また協議する場です。今回の話にも出てきた登下校の防災は、とても重要なのですが、焦点を当てると苦しい部分です。その苦しい部分に話を進めているところが素晴らしいと感じています。3.11の時も下校の時間帯でした。教員の判断が迫られます。

校長より

・顔の見える関係作りが重要と思っています。よろしくお願いします。

・10月に学校の設置条例が変わり、来年4月から校名が変更になり、養護学校は、支援学校になります。本校は、茅ヶ崎支援学校となります。今後も、よろしくお願いします。